



# 『AIドリブン経営 人を活かしてDXを加速する』

【著】須藤 憲司 日経BP 日本経済新聞出版(2024/4/18)

DXの伝道者的な起業家による、AIが得意な業務、苦手な仕事を明らかにしながら、企業変革の進め方をわかりやすく解説されている一冊です！

## 【感想】

2022年11月に、24時間365日休まずに働く優秀なアシスタントのような「夢みたいに都合のいいもの」が登場しました。それが、チャット GPT などの生成 AIの台頭です。現在では、生成 AI を組み込んだ新しい商品が世界中で1日に100以上も生まれています。特に生成 AI は一部の専門家だけでなく、誰もが扱えるようになったため、「AI の民主化」が進んでいる一方で、その活かし方次第では、経営や仕事の格差を拡大させていくと予測されています。

まずは AI の得意分野と人間の得意分野を知ることから始めていきましょう！

AI は同じことを繰り返す作業や大量のデータ分析をするのが得意とされています。

一方で、AI では置き換えが難しい人間の力とは何でしょうか？

①意思決定力②顧客体験の設計および業務設計③人間関係構築スキル

主体的に動かしていく必要のある、価値の定義や評価、交渉、実行、洞察や発見のような能動的業務は AI による代替が難しい傾向にあります。そのため、繰り返し行われる受動的業務は AI に任せていき、お客様が感じる価値の設計により重きを置いていく必要があると考えられます。

## 【以下引用】

### <奪われる仕事は何か>

実際は、ほとんどの仕事は AI による自動化の影響を「部分的にしか」受けません。AI によって丸ごと代替されるケースより、AI が仕事を補完してくれる方が大半です。ホワイトカラーの仕事が比較的影響を受けやすい傾向があり、一方でブルーカラーの仕事は影響を受けにくいとされています。ホワイトカラーの業務のうち、「作業」や「提案」などの受動的業務は AI によって代替および補完が可能です。というのも、これらの業務が繰り返し行われる定型的なパターンに従っているからです。

### <人間だけが「コツ」を教えることができる>

技術は、漢字で書くと、「技」と「術」に分かれます。技は「テクニック」とも言い換えられるものであり、術はツールや手段、つまり「コツ」を指します。師範は後継者を育成する際には、「コツ」を中心に教え、5年ほどでそれをマスターさせるそうです。現状で AI に学習させることができるのは、言語化されたり、形式知化されたりしているものが中心です。特に身体性が絡むような言語化できないコツを教えることは人間にしかできません。だからこそ、ここは人が磨いていく領域でしょう。

### <経営者思考を誰もが持つ時代に>

AI の台頭によって、競争相手は普通の同業界の人だけでなく、AI を使いこなす素人まで含まれるようになりました。この状況において、重要なのは AI との共存方法を考えて使いこなしていくこと。

まずは試しに一度 AI に触れてみることも、理解を深める一歩になるかと思います。